

第114号

三教研に望むこと
調査委員会報告
研究大会の報告
支部トピックス
学校自慢・教育随想



授業は生き物 く格闘や葛藤を楽しむく

三河教育研究会副会長 水野達彦



平成二十六年度の三河教育研究会の各種事業が、三河小中学校長会、各市町村教育委員会等の温かいご支援を賜りながら、大きな成果を上げ、滞りなく終えられることを、たいへんうれしく思います。

特に、本年度で五年目を迎えた「授業力養成講座Ⅰ・Ⅱ」では、受講者から「とても有意義であった。」との声が多く寄せられ、年々充実したものとなっていることがうかがわれました。

◆「授業は生き物です」

この「授業力養成講座Ⅱ」では、本年度初めて中学校での授業研究会を実施しました。知立市立竜北中学校を会場に、今後ミドルリーダーとして期待される先生方がつどい、「道德の時間」の指導を参観し、研究協議を行いました。

授業者は、今、この学級の生徒に、こ

いる証です。「授業力養成講座」を通して、互いに高め合う姿勢が培われていることが実感できました。

◆授業力養成の原点

私は、なんだかとてもうれしい気持ちを抱えたまま帰宅しました。そして、書棚の奥から、古い一冊の本を取り出しました。斎藤喜博に学んだ武田常夫の『詩の授業』です。そこには、授業研究の本質に迫る、いくつかの名言があります。まずは、教材研究における「格闘」について、こう記しています。

「教材と格闘するということは、教材と自分の間に展開されている問いと答えとの絶えざる交錯である。もうこれ以上問いかける何のこともなく、答えうる何のこともないまで自分を追いつめ、教材を追いつめ、曖昧な概念や漠然とした感情に明確な論理と表現を与えていく。そんな作業をくり返して

いく中で、私と教材とを重く遮断していたカーテンは徐々に透明に近づき、教材の核心は少しずつわたしの目の前にその姿をあらわしてくる。」

そして、実践上の「衝突と葛藤」について、こう続けています。

「教材解釈の結果を子どもという具体的な現実に衝突させ葛藤させながら、あらゆる問いかけを創造する。(中略) わたしにとつてまったく未知な子どもの反発や抵抗に出会ったとき、それとの思いがけない衝突と葛藤とを実現したとき、わたしはじめて子どもを知

り、教材を知り、授業を知りえた充足感をもつのである。」

ずいぶん長い引用になってしまいました。私は、この教材との格闘、そして子どもと創りあげる授業での衝突と葛藤こそが、「授業力養成の原点」だと思います。

先に紹介した「授業力養成講座Ⅱ」における授業者の「授業は生き物です。」というつぶやきは、まさに、この格闘と衝突、葛藤を繰り返した上での本音です。

◆中堅・若手教員への期待

本校・安城南中에서도、現在全校をあげて、道德の授業研究を行っています。若い先生方が、回を重ねるごとに、資料分析の難しさや、授業における生徒の反応の多様性に気づき、苦しみながらも、前述の格闘や葛藤のおもしろさを体感しつつあるようです。

本時のねらいを考えた時、この資料で焦点を当てるべきところはどこか、そのための発問はどうあるべきか、それに対して生徒はどんな反応を示すだろうか、そうした多彩な反応を受けて、より深い学びに導くために、教師はどうコーディネートすればいいのか……。先生方の誠実な模索が続きます。

子どもを知り、教材を知り、授業を知りえるという境地にたどり着くことは容易ではありません。しかし、だからこそ、授業はおもしろいのです。

中堅、若手の先生方のこれからの授業が楽しみだな、そう思うこの頃です。

三教研に望むこと

継続と新たな創造

アラモ訪問から

新城市立鳳来中学校

原 田 隆 行

昨年十一月、アメリカ、テキサス州、サンアントニオ市のアラモ砦を訪問し、岡崎市出身の世界的地理学者、志賀重昂博士が一九一四年に建立した友好記念碑の百周年記念式典に参加しました。

世界旅行の途中、アラモ砦を訪れた志賀博士は、一五七五年の長篠の戦いと一八三六年のアラモの戦いの類似点に気付き、「人情の機微に至っては東西同一にして、至誠は東西共通するものなり」の考えのもと、岡崎産の石で日米友好の記念碑を百年も前に残していたのです。

両戦は、若い指揮官が少数で大軍勢を相手に籠城戦を繰り広げたこと、長篠では鳥居強右衛門、アラモではボナムが援軍を求めたこと等、類似点が多くあります。志賀博士は、偶然が重なった史実に驚き、英雄を讀める思いは、国境を越え、日米共通だと考えたのです。

その後、アメリカでは日本人への排斥運動、そして、第二次世界大戦があり、記念碑は危機に見舞われ、碑の表面には銃弾の跡もつきますが、地元市民の尽力により残

され、今回の式典となりました。

テキサスは、アラモの戦いの後、メキシコから独立し、共和国となりました。テキサスの人々にとって、アラモ砦は精神的支柱です。そこへの日本からの訪問ですから、大歓迎を受けました。かつて、七十五周年の記念式典を機に十年間鳳来中が交流していたことにも感謝し、さらに、新たな絆を築く機会となりました。

二つの戦いを結び付け、日米の英雄を讀めた志賀博士の思いが時間と空間を越えて結実したものだといえるこの訪問は、三河人としての「縁」によるものに違いないと、不思議な感動を覚えました。式典後、小雨にうたれながら、石碑にそっと触れたとき、三河人としての誇りと連帯感、三河の心意気を強く感じました。

世界的視野と歴史的洞察力から世界情勢に鑑み、日米の将来を案じ、形ある石碑を残した志賀博士の偉業は、実体験や柔軟な発想の重要性、先見性、行動力、平和を愛する心を教えてくれています。

三河教育研究会は、三河の風土と伝統を重んじ、誠実で勤勉な三河人を育てていきます。三河全域の教育研究成果の共有、実践重視の研究姿勢、それらの継続と新たな創造こそが、次代を担う子どもたちに夢を持たせ、三河人としての心意気を享受させ得る唯一のものだと確信しています。

授業力養成講座に期待する

知立市立知立小学校

村 瀬 俊 一

「三、二、一、〇、発射！」

テレビ画面を通して応援する子どもたちの声に支えられ、「はやぶさ2」の打ち上げは見事に成功しました。この記念すべき十二月三日、三教研主催の「授業力養成講座Ⅱ」が本校で開講されました。

一年ほど前に、会場校依頼のお話をいただきました。当初は、この講座の目的である「中堅教員の資質向上」に資する授業が公開できるか不安で迷いましたが、「本校教員の授業力を高めるよい機会」と考え、引き受けることにしました。そして、全職員に「来年度は、本校が会場校になること」「授業者は来年度に決定すること」「学校全体で対応し、授業者だけに負担をかけないこと」を伝えました。

新年度早々に授業者の三人を決定し、講座当日までの予定などを確認しました。三人とも意欲的で、「引き受けてよかった」と改めて思いました。

当日の授業後の協議会では、熱のこもった討議がなされ、また、講師の先生方からは温かいご指導をいただき、授業者はもとより、本校にとっても有意義な講座になったことを実感しました。

このような貴重な機会を与えてくださった三教研に感謝を申し上げるとともに、本講座が継続・充実されることを期待しています。

授業改善に向けて

碧南市立中央中学校

加 藤 澄 子

「この先どうしたいか書いてみよう。どうなっていくか、では他人事だよ。あなたたちがどうしたいかです。」ある教師の発したこの言葉が、今も頭に鮮明に残っています。

日々の教え込みの授業に反省していた私は、生徒の主体性を重視した授業改善に取り組みたいと思い、昨年度、三河教育研究会主催の授業力養成講座に参加しました。

夏の講座では、「言語活動ではいかに教師が主導していくかが大切であり、それにより他者意識をもって話すことや聞くことができる生徒の育成が可能である。」と学びました。自分の授業を振り返り、講座で学んだことを二学期の実践に取り入れてきました。

また、冬の講座で参観した小学校の社会科授業は、驚きの連続でした。周到に用意された十五号を超えるワークシート。問題を自分のこととして捉え、解決しようとする児童。教師の努力と力量によって、授業は大きく改革できることを思い知りました。教師が投げかけた冒頭の問いかけは、自分が目指したい授業の指標となるものでした。

この授業力養成講座は、自分の授業を振り返り、授業改善に向けての方向性を学ぶ貴重な経験となりました。

『子どもを中心に据えた教育』

～ 自他を生かし、未来を創造する子の育成 ～

調査委員会

私たちは、「三河の風土に根差し、子どもを中心に据えた教育を実践する」「子どもの生活を変える学びを創造する」を三河教育の理念として掲げ、約半世紀にわたり、子どもの「生きる力」を育て続けてきました。そしてこの姿勢は、今後も変わることはありません。

学習指導要領には、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を基盤とし、「思考力・判断力・表現力の育成」「学習意欲や学習習慣の確立」「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」など、重点を置くべき項目がいくつも挙げられています。

しかし、これらのことは、私たち三河の教員にとって、決して目新しいものではありません。多くの価値ある実践を積み重ねてきているこの三河教育に、私たちは自信をもつべきなのです。

これまで、私たちは、「ESD」など、教育現場に飛び交うキーワードを取り込み、しなやかに対応してきました。そして、自らの実践を振り返り、さらに発展させることを繰り返してきました。このような懐の深さ、柔軟さを三河教育の誇りとし、今後も自信をもって研究を推進

していききたいものです。

このたび、調査委員会では、実践事例集の編集にあたり、主題を「『子どもを中心に据えた教育』～自他を生かし、未来を創造する子の育成～」とし、三河教育の先進的な実践を幅広く集め、皆で共有し、財産としていきたいと考えました。

ここに完成した実践事例集には、三河の各支部における、小学校・中学校の魅力ある実践が掲載されています。

どの支部においても、私たちの共通理念は、目の前の子どもや、地域の実態を大切に考えたそれぞれの実践の中に息づいています。それら各支部の価値ある実践を具体的な形で残すことによって、私たち教員の資質・技能のさらなる向上へと結びつけていくことができたかと考えています。

新たな時代を見据える際の一つの指針としても、この実践事例集は価値あるものだといえます。各校一冊の配付ではありませんが、この財産を埋もれさせてしまうことなく、研究を推進する立場の者や、研究授業によって自らの取り組みを発信する立場の者が手に取り、さらによい実践を生み出す土台としていただければ

と思います。

本事例集の巻頭言を、愛知教育大学家政教育講座教授の山田綾先生よりご寄稿いただきました。山田先生は教育学（教育方法学、家庭教育、環境教育等）に造詣が深く、授業や子育ての在り方を、子どもを取り巻く生活や文化、社会との関係で研究されております。また、先生には三河各地の学校現場にも足を運んでいただき、ご指導をいただいたり、ご講演をいただいたりしております。現在は愛知教育大学附属岡崎中学校の校長を務められ、大学と現場教育のよりよい連携のためにご尽力いただいております。

山田先生からは、「三河教育の掲げる『子どもを中心に据えた教育』とはそもそもどのようなものなのか、また、今後どう在るべきなのかを、過去の系譜をたどりながら述べていただいております。私たちの今いる位置、そして今後めざすべき未来の在り方について、貴重なご示唆をいただきましたので、ここに簡単に紹介させていただきます。

◎子どもの主体性と権利に開かれた「参加」

「子ども中心」の教育は、「学習観の転換」「子ども観の転換」という二つの視点で捉え直す必要がある。「子ども」という立脚点から世界を問い直す学びであるか、「子ども」を「保護される」という固有の権利とともに、意見表明する権利を有する「判断主体」と捉えているかという視点である。子どもは教師が提示

した教材に主体的に取り組み、正しいかどうかを検討するだけでなく、教材を持ち込み、テーマとともに、秩序やしぐみなどの授業構成の決定に「関与・参加」する教師の共同探求者と見なす必要がある。

◎「子どもを中心に据えた教育」の発展のために ― 多様な価値観に開かれた対話・討論 ―

「子どもを中心に据えた教育」の発展のために、以下の四つの点において、さらなる検討が望まれる。一つ目に、経験ばかりに頼らず、常に高度な専門性を高め続け、目の前の子どもと社会との関係を見続けること。二つ目に、多くの実践の手だてとして挙げられる「対話」の意味を、正しく理解すること。三つ目に、多様な価値観に開かれた、「子どもの側」から問題を立てる教科内研究を充実させること。四つ目に、子どもが実際に行うしつつ、社会とどのようにかわるかを学ぶ、シティズンシップ教育を検討することである。

本事例集には、三河各支部において取り組まれた、小・中学校三十二の事例が掲載されています。それぞれの支部において、子どもを中心に据えた、確かな実践ばかりです。

各学校が、今後の研究推進の一つの指針として、この事例集を積極的に活用いただくことを願っています。各支部長、ご執筆いただいた関係の皆様方に、あらためて深く感謝申し上げます。

報告

授業力養成講座

～中堅教員のミドルリーダーとしての資質向上をめざして～

各校の中堅教員を対象に、授業の在り方や参観の仕方、協議会の進め方など、授業力向上につながる機会として平成二十二年より開催している授業力養成講座も今年で五年目を迎えました。

今年度は東西あわせて一六〇名を越える受講者を募り、ミドルリーダーとしての中堅教員の資質向上を図りました。

授業力養成講座Ⅰ

講師をお招きし、講義形式による授業づくりを中心とした実践的な研究理論について学びました。

講師の先生方からは、意欲的に学ぶ子どもの姿を引き出す教材づくりや単元構想の在り方、教師支援の在り方などについてご指導をいただきました。また、ワークショップ方式で実際に教材を扱いながら、授業づくりのポイントを学ぶ場面も多くありました。

夏の暑い中、受講者のみなさんの積極的な学ぶ姿勢が見られました。



意見交流する受講者

【東三河】

期日 八月二十日（水）

会場 新城地域文化広場（文化会館）

内容 授業づくりと授業の見方 石井 洋 先生

講師 岡崎市立矢作北小学校長 神本 政雄 先生

「道徳の授業における話し合い」

名古屋芸術大学非常勤講師 神本 政雄 先生

「授業のパフォーマンス力を高める」

岐阜市立市橋小学校長 河合 宣昌 先生

「道徳の時間の指導と手立てとその意味を学ぶ」

【西三河】

期日 八月二十二日（金）

会場 知立市中央公民館

内容 授業づくりと授業の見方 藤嶋 力央 先生

講師 豊田市立足助中学校長 藤嶋 力央 先生

「授業づくりのバックボーンになるもの」

豊橋市立牟呂小学校長 山西 正泰 先生

「子どもの学びのつらさと授業の改善」

岡崎市立男川小学校長 蜂須賀 渉 先生

「子どもの思考力・判断力・表現力を高める教師の出」

学び続ける姿勢を大切にしていきたい

魅力ある講師の先生方からたくさん学びと刺激をいただき、「もっと授業力をつけたい」という思いが高まる研修でした。

講座Ⅰでは、山西先生から子どもをとらえ続けようとする教師としての在り方を学びました。また、蜂須賀先生の講座では、授業の中で教師はどう出るべきかを具体的に示していただき、九月から授業での意識が確実に変わっていきそうです。

講座Ⅱでは、藤嶋先生から実際の授業をもとに、話す力・聞く力を身につけるための手だてを具体的に指導いただきました。参考になる書籍なども紹介していただき、さっそく読み始めています。

本講座を通して、授業づくりを中心とした研究理論を学ぶだけでなく、教師として学び続ける姿勢の大切さを強く感じ、身の引き締まる思いです。

授業力養成講座Ⅱ

講座Ⅰの講義と連携し、講座Ⅱでは東西あわせて六名の先生方の授業実践とその協議会を通し、授業力を推進するリーダーとしての力を高めました。

協議会では、単元構想の仕方や手だての有効性などについて、グループで話し合ったり、全体で意見交流を図ったりしました。ファシリテーター・アドバイザーからは、授業分析のポイントや、具体的な教師のはたらきかけについて、ご指導をいただきました。



協議会の様子

「学んだことをもち帰り、共有を図りたい。」などの声が聞かれました。

【東三河】

期日 十一月十八日（火）

会場 蒲郡市立形原中学校

内容 授業公開・授業研究協議会

授業者 田原 直和 先生（二年 道徳）

ファシリテーター・アドバイザー 岡崎市立矢作北小学校長

石井 洋 先生

期日 十二月五日（金）

会場 蒲郡市立蒲郡南部小学校

内容 授業公開・授業研究協議会

授業者 吉浜絵里子 先生（五年 理科）

ファシリテーター・アドバイザー 名古屋芸術大学非常勤講師

神本 政雄 先生

授業力養成講座Ⅱに参加して

蒲郡・塩津小 山本重美子

田原先生による道徳の授業と、吉浜先生による理科の授業を参観し、研究協議会に参加しました。どちらの授業も子どもがみごとに育っており、学習指導の積み上げと、学級経営の確かさを感じました。研究協議会では、積極的に発言をする先生ばかりで、そんな先生方と協議できたことをうれしく思います。

最後に石井先生、神本先生よりご指導をいただきました。石井先生の本時の授業と協議会を受けての的確なご指導と、神本先生の子どもの「とらえ、認め、励ます」という言葉が心に残りました。今は、この講座で学んだことを生かして、私ものがんばろうという気持ちでいっぱいです。

【西三河】

期日 十二月三日（水）

会場 知立市立知立小学校

内容 授業公開・授業研究協議会

授業者 竹内 生昌 先生（五年 国語科）

磯村 祐樹 先生（四年 社会科）

丹羽真由美 先生（五年 算数科）

ファシリテーター・アドバイザー

豊田市立足助中学校長 藤嶋 力央 先生

豊橋市立牟呂小学校長 山西 正泰 先生

岡崎市立男川小学校長 蜂須賀 渉 先生

知立市立竜北中学校

内容 授業公開・授業研究協議会

授業者 国塚 雄樹 先生（二年 道徳）

ファシリテーター・アドバイザー

幸田町立豊坂小学校長 近藤 正義 先生

受講された先生方が、各学校及び各地域における授業力向上の推進役となり、一層活躍されることを願っています。

最後になりましたが、ご指導いただきました講師の先生方、また、授業公開していただきました蒲郡市立蒲郡南部小学校・形原中学校、知立市立知立小学校・竜北中学校に心より感謝申し上げます。

部会・各種委員会

研究大会の報告

音楽

音楽のよさを学び かかわり合い
想いを伝えて

～評価を生かした指導を通して～

平成二十六年年度

愛知県小中学校音楽教育研究会豊田大会

期 日 十月一日(水)

場 所 豊田市立挙母小学校
豊田市コンサートホール

公開授業

挙母小学校二年
伊保小学校四年
東広瀬小学校五年
猿投台中学校三年

記念講演

「子どもたちが音楽の授業で身につける力」

講師 音楽鑑賞振興財団 川池 聡 先生
研究演奏 合唱、器楽合奏 他

本年度は豊田市において、愛知県小中学校音楽教育研究会の研究大会を開催しました。

本研究では、子どもが音楽に浸ってそのよさを味わったり、互いにかわり合っ
て音楽をつくり上げたりする姿を表出さ
せることをねらいとしました。そして、
子どもが受動的に臨む授業から、主体的
に学ぶ授業とするために、「評価の方法」
に視点をあてることとしました。教師が
子どもに身につけさせたい力が何である
のかを明確にし、一人一人の達成度を正
確に評価して、個に応じた支援をするこ

とで、子どもが授業を終えた時に、成果
や課題を実感できるように授業を構想し
ました。

公開授業では、「音色」や「強弱」な
ど、音楽的な要素を伴った発言や、実際
に演奏を交えた意見交流を教師が促すこ
とで、子どもが互いの表現を認め合いな
がら主体的に音楽表現を高めていく姿が
見られました。

また、大会の最後に行われた研究演奏
では、合唱に加え、和楽器やハンドベルな
ど、各学校で伝統的
に培われてきた特色
ある音楽活動の成果
が披露され、授業だ
けでなく、学校で日
常的に音楽活動に取
り組むことの価値を
改めて実感させられ
る大会となりました。



互いの作品を聴き合い助言する姿

愛音研豊田大会に参加して

豊橋・福岡小

太田 理恵

「ライブ評価」という言葉にとっても惹かれ
ました。先生方は、子どもの表現に対し「共
通事項」を根拠に褒め認めていました。また、
色分けした和音や強弱記号のマグネットシー
トを配付し、楽譜に貼ることで、だれが見て
も、個の表現がわかるような教具を作成され
ていました。ライブ評価を実践するための教
具の工夫が大変勉強になりました。

造形

子どもの思いが広がる造形教育

愛知県造形教育研究会総会
第五十二回

愛知県造形教育研究協議会

期 日 十一月四日(火)

場 所 穂の国とよはし

芸術劇場プラット

研究発表(三河部)

「素材に親しみ創る喜びを味わう」

子どもの育成」

幸田町立豊坂小学校

高沢美砂子 先生

「全員で作り上げるといふ一体感を

味わい、完成に向けて意欲的に

制作できる生徒の育成」

碧南市立西端中学校

神谷 宜欣 先生

講演

「図工・美術科における

目標と評価の一体化について」

講師 愛知教育大学名誉教授

ふじえ みつる 先生

県下の小、中学校より約三百七十名の
参加があり、盛況のうちに開催すること
ができました。三河部からは二名の先生
が発表をしました。豊坂小学校の高沢美
砂子先生の実践では、子どもの生き生き

とした姿が伝わってきたという声や、西
端中学校の神谷宜欣先生の実践からは、
子ども一人一人を大切にしている指導が心に残ったなど参加者から好評を得ました。
その後の研究協議では、参加者から実践
の中で、より具体的な指導法などを聞く
姿など多くの意見が出ました。

講演では、愛知教育大学名誉教授のふ
じえみつる先生から図工・美術科の目標
と評価に
ついて、
実践をも
とにわか
りやすく
お話しし
ていただ
きました。



講演をされるふじえ先生

本研究会には、三河地区から多くの先
生のご協力をいただきました。関係の
方々に深く御礼申し上げます。

愛知県造形教育研究会に参加して

豊田・下山中 那須 弘典

研究発表会では、三年間を見通した
授業づくりや共同制作での創作活動、
素材を生かした造形遊びなど魅力的な
実践が多く、大きな刺激となり大変勉
強になりました。講演会では、図工・
美術科の評価について丁寧な解説して
いただきました。今回学んだことが、
子どもたちや私たち教師自身の学びに
つながるように日々努力し、全力で取
り組んでいきたいと思っています。

技術・家庭

**未来を創り出す豊かな心と
確かな実践力を育む家庭科教育**

第一回東海・北陸地区小学校

家庭科教育研究会西尾大会

愛知県家庭科教育研究会西尾大会

期日 十月十七日（金）

場所 西尾市立横須賀小学校

参加者 三百五十四名

公開授業 家庭科 五・六年 五学級
研究発表

○研究主題「できる喜びを味わい、
生活に生かすことのできる子の育成」

～授業のユニバーサルデザインを
取り入れた家庭科の指導の工夫～

○西尾市教育研究会技術・家庭部会
○三河教育研究会技術・家庭部会
小学校家庭科部会「衣服と住まい」班
指導・講師

講師 愛知教育大学准教授
青木香保里 先生

講演 文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
筒井 恭子 先生

本年度の愛知県家庭科教育研究会西尾大会は、記念すべき第一回東海・北陸地区小学校家庭科教育研究会愛知大会とあわせて開催されました。

公開授業では、教材・教具やユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫によって、どの子どもも楽しく、できる喜びを味わいながら活動する姿が見られました。

研究発表では、西尾市教育研究会技術・家庭部会から、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりの工夫と、その成果が報告されました。また、三河教育研究会の「衣服と住まい」班からは、ものづくりを通して生活を豊かにしようとする子どもの姿が報告されました。

指導講師の青木先生からは、ユニバーサルデザインの考え方や授業に生かす意義について、また、講演講師の筒井先生からは、これからの家庭科教育における授業づくりや評価のポイントについて具体例をもとにご指導いただきました。

今大会でご指導いただきました講師やご来賓の先生方をはじめ、横須賀小学校並びに西尾市教育研究会技術・家庭部会の先生方に深く感謝申し上げます。

愛家研西尾大会に参加して
豊田・九久平小 富田 千鶴
ユニバーサルデザインを取り入れた指導を工夫することで、どの子どもでもできる喜びを味わい、生活に生かせる学びとなることを実感しました。また、家庭科での表現力・判断力・思考力の育み方や言語活動を充実させるためのポイントを学び、今後の実践に生かしていきたいと思っています。



ユニバーサルデザインの授業

技術・家庭

**よりよい生活に向けて、
最適解を求め続ける生徒の育成**

～考えの広がりや深まりを大切にしながら
問題解決的な授業を通して～

平成二十六年愛知県中学校

技術・家庭科研究大会知立大会

平成二十六年度三河教育研究会

技術・家庭部会研究集会知立大会

期日 十一月五日（水）

場所 知立市立知立南中学校

参加者 三百二十八名

公開授業 技術分野 二年 一学級
家庭分野 二年 一学級

助言者

愛知教育大学教授 太田 弘一 先生
愛知教育大学講師 伊深 祥子 先生

講演「今後の社会で求められる
技術・家庭科教育」

講師 文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
上野 耕史 先生

開会行事では、愛知県中学校産業教育研究協議会の山田光夫会長のあいさつに続き、知立市教育委員会の川合基弘教育長からごあいさつをいただきました。

公開授業では、技術分野の栽培領域で、浦本裕之先生が「ラッカセイの可能性」の実践を公開し、家庭分野の食生活と自立の領域で、伊藤由美子先生が「日常食

de非常食！」加工食品で築く豊かな食生活」の実践を公開しました。

問題解決的な学習過程を繰り返す中で、子どもが自分なりの最適解を見つけ出し、仲間の考えと照らし合わせながら、自分の考えを深めていく姿を見ていただくことができました。

分科会では、本部会の研究組織である専門班（生物育成班、食生活班）からの提案と授業についての協議会を開き、愛知教育大学の太田弘一先生、伊深祥子先生からご助言をいただきました。短時間でしたが、有意義な時間となりました。

上野先生の講演では、平成二十八年に行われる東海・北陸大会愛知大会に向けて、子どもが自分の考えを「深める」ために必要な教師の支援の在り方について、貴重なご助言をいただきました。

最後になりましたが、今大会で大変お世話になりました知立市立知立南中学校並びに、同市技術・家庭部会の先生方に深く感謝申し上げます。

最適解を求め続ける生徒とは

豊田・石野中 猪田 直生

最適解を求めるためには、さまざまな諸条件を整理し、その中で最も適したものを選ぶことが大切だということを学ぶことができました。毎時間における問題解決的な授業を通して、「最適解を求め続ける生徒を育成する」という新しい研究の方向性が伝わってくる発表でした。

道 徳

豊かな心を持ち、共にによりよく
生きようとする力を育てる
道徳教育

第五十二回愛知県道徳教育研究大会豊橋大会
期 日 十月二十八日（火）
場 所 豊橋市立羽根井小学校
参加者 四百九十八名
公開授業 羽根井小学校全学級
分科会 小学校低・中・高学年、
中学校 計四分科会
記念講演「教科化時代の道徳教育に
もとめられるもの」

講師 東京学芸大学教授
永田 繁雄 先生

愛知県道徳教育研究大会は、三河、名古屋、尾張で開催地区をローテーションして開催しています。今年度は三河の担当で、三河地区を中心に、多くの先生方に参加していただき、有意義な会を開くことができました。

はじめに、羽根井小学校の全学級で、道徳の授業公開が行われました。主題により深く迫るためのテーマ発問を中心として授業が展開される中で、子どもたちが目を輝かせ、価値や自己の生き方を追求し合う姿が見られました。羽根井小学校の先生方が、「豊かな心を育み、たくましく生きる子どもへの育成」を目指して授業研究を積み重ねてこられた成果を感じます。すばらしい授業ばかりでした。

その後、四つの分科会で研究協議が行われました。授業で扱う資料の提示の仕方や、発問、板書の工夫など、今後の授業にすぐに取り入れたいと感じる内容の実践が、各地区の代表の先生により提案されました。

記念講演では、永田繁雄先生に「教科化時代の道徳教育にもとめられるもの」をテーマに、今後の道徳教育についてお話いただきました。今までの道徳教育で大切にしてきたもの（不易）は守り、常に新しさ（流行）も求めていくことの大切さについて熱く語っていただきました。これからの新しい道徳授業をつくるための多くの

の指針を
いただいた
講演で
した。



講演をされる永田先生

教科化を見据えて

岡崎・矢作北小 本郷 一毅

中教審より道徳の教科化が答申された直後でもあり、大きな期待をもって参加しました。「テーマ発問」の形式で行われた公開授業を参観して、これからの道徳授業のひろがりを感じました。永田先生の記念講演をお聞きして、子どもを大切にしたいという思いを強くしました。教科化に向け、道徳の授業を充実させるための手がかりをたくさん得ることができ、大変有意義な機会となりました。

生徒指導

自らを高め社会に役立つことを
目指した生徒指導

平成二十六年年度

愛知県生徒指導研究大会

期 日 十一月十二日（水）

場 所 江南市民文化会館

参加者 七百名

研究発表

○豊かな人間性・社会性を育てる生徒指導

徒指導

○一人一人に寄り添い、心を育てる生徒指導

徒指導

○規範意識を高め、社会に通用する生徒を育てる生徒指導を目指して

指導講評

愛知県教育委員会

高等学校教育課 主査

森藤 真言 先生

本年度の愛知県生徒指導研究大会は、尾張地区の担当で、江南市民文化会館にて開催されました。

研究発表では、三河・尾張・高校で、それぞれ一名の先生が発表されました。三河ブロックからは、西尾市立福地南部小学校の榊原浩子先生が、どの子にも居場所のある学級・学校づくりを目指した実践を発表されました。話し合い活動の充実や、友達のよさを見つけたら、自分の役割に

対して責任を果たしたりする活動を手だてに、抽出席の変容がよくわかる発表でした。また、誌上発表として、「授業づくりを基盤とした生徒指導」と題し、田原市立中山小学校の兼松貴志先生、「生徒憲章を中心にした生徒指導」と題し、設楽町立設楽中学校の佐々木英幸先生が、大会に原稿を寄せられました。

研究大会に参加して

岡崎・竜南中 河合 和広

研究大会に参加し、小・中・高と異校種にわたる生徒指導の実践発表を聞くことができました。本研究大会には、「自らを高め社会に役立つことを目指した生徒指導」という研究主題があります。個に対応した指導を充実すること、一人一人に寄り添うことを目指した実践や、学校・保護者・地域が連携をとって児童・生徒を見守っていく実践などがありました。将来を見据えて生徒指導にあたっていくことの重要性を学ぶことができました。

本大会で学んだことを今後の生徒指導に役立てていきたいと思います。



発表を受けての研究協議

統計教育

未来に生きる力を育てる

統計教育

平成二十六年年度

愛知県統計教育研究協議会

研究発表会・講演会

期 日 十一月二十五日(火)

場 所 イーブルなごや

参加者 九十名

◎研究発表会

【提案者】

刈谷・依佐美中 平野 真登 先生

東海・平洲中 新井 聖人 先生

名古屋・西味鏡小 石原 和明 先生

◎指導講評・講演会

「今後の統計教育の

普及・充実について」

～アクティブ・ラーニングの

視点と教材例～

講師 愛知教育大学准教授

青山 和裕 先生

愛知県統計教育研究協議会研究発表会・講演会が、イーブルなごやで開催されました。本年度の開催は、名古屋地区が担当し、各地より九十名の参加者を得て有意義な会となりました。

研究発表会では、尾張・名古屋地区からは、社会科での実践が提案されました。三河地区からは、給食を食べる時間や乾電池の稼働時間をデータ化して分析するなど、生活に役立てる実践を提案さ

れました。

身近な事象をデータ化し、生き生きと学ぶ子どもたちの姿が伝わってくる発表

でした。こうした実践は、あふれる情報から必要な情報を選び、活用する子どもの姿を目指したものです。統計教育を通して、生きる力を高めるために、学習内容をいかに具体化していくかといった視点で、先進的提案となりました。

つづいて、愛知教育大学の青山和裕先生にご講演をいただきました。青山先生からは、今後の統計教育の充実の重要ポイントとして、『アクティブ・ラーニング』のさらなる充実『統計的探求の多様性・複雑性を取り入れること』『データカードの活用』を挙げられ、今後の統計教育を進めていくための指針を示していただきました。

最後に、提案者の先生方をはじめ、お世話になった関係諸機関、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

研究発表会・講演会に参加して

各地区の先生方の提案や青山先生のお話から、統計教育でこそ育まれる力の大切さを知りました。教科を問わず、その力を活用できるような実践を行っていき



講演をされる青山先生

へき地教育

ふるさとで心豊かに学び、

新しい時代を

切り拓く子どもの育成

平成二十六年年度

第五十二回愛知県へき地教育研究大会

期 日 十月二十八日(火)

場 所 設楽町立津具小学校

設楽町立津具中学校

参加者 百三十七名

公開授業 津具小学校 七学級

津具中学校 三学級

全体会

○基調報告「第八次研究推進計画」

県へき研研究部

○研究推進状況報告

・新城市立黄柳川小学校

・東栄町立東栄中学校

公開授業は、小学校と中学校の全学級で行われました。どの授業も少人数の特性を生かして行われており、児童生徒が生き生きと活動する姿を見ることができました。その後、体育館で行われたアトラクションでは、小中学生による合奏と合唱の発表が行われました。迫力のある演奏と歌声に、参加者全員から大きな拍手が送られていました。

基調報告では、第八次研究推進五か年計画の初年度に当たり、研究の構想と主題と課題について説明が行われました。その中

で、①地域の力を生かした特色ある学校づくりを通して、確かな学びと豊かな心を育む学校・学級経営の在り方を追究すること、②子どもの個性や、へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、仲間と共に高め合う学習指導の在り方を追究することの二点が確認されました。

研究推進状況の報告では、研究委嘱校の黄柳川小学校と東栄中学校の二校から、研究主題と取組の現状について報告がありました。

その後、活発に質疑応答が行われ、研究大会を終えることができました。



全体会の様子

県へき研究大会に参加して

津具中三年生の社会科公民の授業を参観しました。学校裏にある人工林整備をきっかけとして地元林業の現状に迫ったり、県や町が人工林整備事業に森林環境税を導入する理由を追究することを通じて県政・町政の在り方を考えたりと、津具に住む生徒の生活意識を大切にして教材を練り上げている点に感銘を受けました。

豊橋支部

豊橋市の教科等研究部活動 活性化にむけた取り組み

豊橋市立全小・中学校



熱心に話し合う教職員

学校教育の担い手である教職員の資質・能力の向上、とりわけ若手教職員の育成を図ることが喫緊の課題となっています。本市では、教科・領域の研究部活動が、教職員研修の大きな柱の一つとして位置づけられています。各研究部が、授業研究を核とした研究部活動を推進し、十二月には全市の教職員が一堂に会して一年間の成果を協議する「研究部研究大会」を開催しています。年々高等学校からの参加者も増え、校種を越えた連携も深まっています。この半日の研究大会を教職員の研修・研鑽の場ととらえ、次の二点に重点を置いて計画・運営をしています。

(一) 若手教職員育成にむけた研究体制づくりの推進

現場の若手教職員の育成・向上が急務であることを受け、研究部も若手教職員の研修に焦点をあてた体制づくりを進めています。その成果として、中堅教員から若手にこれまで積み上げた経験を伝える場を設定したり、若手と中堅で授業研究グループを構成したりと、若手と中堅がともに学び合う体制づくりをする研究部が多くみられるようになりました。

(二) 参加型の研究協議への転換

一人一人の教職員が研修意欲をもつて研究協議に臨めるように、分科会のもち方について見直しと改善に努めています。付箋と模造紙を用いたワークシヨップ形式のグループ討議を行ったり、ブロック内の小中合同の話し合いによつて学びのつながりを強く意識する場を設けたりするなど、協議会の充実が図られた研究部が増えてきました。

豊橋市においては、各研究部が専門性を高めるべく、今なお研修の仕組みを模索しています。教育にかかわる全ての者が実践研究者の一人としての自覚をもち、いっそうの研修・研鑽に励んでいきたいと思っています。(文責：松山小・竹田 敏彦)

支 部

トピックス



豊田支部

教員免許状更新講習と 教育研究協議会の開催

豊田市教育研究会事務局

豊田市教育研究会では、豊田市教育委員会と協力し合つて、教員免許状更新講習を実施しています。この取り組みは平成二十四年度から始まり、毎年夏に豊田市教育研究会の各部会が行っている夏季実技研修会と合わせて実施しています。今年度は、七日間で必修二講座と選択二十三講座が開かれ、二百五十八名が受講しました。

講習では、市教委の指導主事や豊田市教育研究会の各部会が選定した大学教授が講師となり、教科領域等指導員などをゲストスピーカーとして招き、専門的・先進的な内容の講義が展開されています。受講料は三千円で、国の講習に比べて安く、講習場所も、豊田市内の交流館や公共施設等です。受講者からは、「最新の教科の内容や教育事情が学べ、しかも近場で安く終えることができた」と大変好評です。

今後も、豊田市の教職員の資質向上に向け、教育委員会と連携して取り組んでいきます。

次に、研修部の活動として、八月二十六日に豊田市教育研究協議会を開催しました。千六百名を超える会員と来賓・保護者の参加を得て、三十一分科会を市内十五会場に分けて行いました。

今年度も、各学校で「ゆとりとふれあいのある教育」の実現を目指して、教育研究活動をすすめてきました。協議会の中では、基礎・基本の定着を確実に図ること、地域の特色を生かした創造型の教育課程の編成が重要であることなどが再確認されました。また、どの分科会も活発な討論がなされ、参加者からは「とても有意義な会だった」という声がたくさん聞かれました。

今後は、この研究協議会の成果を各学校の教育に生かし、教育研究活動をさらに積み重ねていくことが大切であると考えています。

(文責：末野原中・仲田 英成)



熱心に学習を深める教員免許状更新講習受講者

人と地域と

つながる子どもたち

蒲郡市立塩津小学校

「おはよう。おはよう。」本校の一日は、元気な朝のあいさつから始まります。これは、児童会が企画したあいさつ運動で、毎朝高学年の登校した子から、門のところに列をつくり、後から登校した子たちを大きな声のあいさつとハイタッチで出迎えます。小さな一年生には、膝を折り、目線を合わせて声をかけたり、同級生でも男女関係なく目と目を合わせてあいさつが交わされている活動は、子どもたちの学校自慢にもなっています。

もう一つの本校の自慢が、「塩」についての総合的な学習に取り組んでいるこ



学校の塩焼き小屋で塩作り

とです。塩津小学校の学区は、古くは製塩業が盛んに行われていました。昭和二十八年の台風十三号で、学区にあった塩田は壊滅的な被害を受け、その姿は完全になくなってしまいました。現在は、遠浅であった海岸部に埋め立て地が広がり、子どもたちは「塩田」があったことを知らないという現状でした。

そこで、平成十三年、当時の職員が塩津の町の名の由来となった塩作りを教材化しようと、学習がスタートしました。学区の塩焼き名人の指導を受け、毎年五月の終わりに、校内にある塩田はフル稼働で、放課ごとに子どもたちが塩田に海水をまく姿が見受けられます。そこから塩のもとになる「かん水」がとられ、校内にある塩焼き小屋で煮詰め、塩になります。この手作りの塩は、しょっぱさのなかにもまろやかさがあり、本校を訪ねるお客様へ配られることもあります。

明るく大きな声であいさつを交わし、人とのつながりをつくり、塩の学習で地域の伝統を学んで巣立っていく子どもたち。これらの活動が、彼らの郷土に対する誇りを生み出すものになり、今後の子どもたちの成長に大きく資するものと考えています。

(文責・尾崎 幸克)

学 校 自 慢



地域の「人・こと・もの」から学ぶ「町学習」

西尾市立西尾小学校

本校は、旧西尾城の城郭の中にあり藩校を前身とし、学区には、城下町の風情を残す町並みがあります。

地域には、学区をはさむように川が流れ、自然を生かした公園があります。町に目を向ければ、昔話にかかわる寺社や、創業から百年以上の伝統を誇る老舗が見られます。

本校では、平成九年度から生活科や総合的な学習の時間を活用し、地域の「人・こと・もの」から学ぶ「町学習」に取り組んでいます。

学区の自然や町並みにふれ、大好きな場所や人を見つめる一～三年の学習では、子どもたちが町に出かける度に様々な発見をし、目を輝かせて帰ってきます。学校にはない草花や遊具がある公園、大きな松ぼっくりが見つかる神社、ミシンを上手に使う仕立てる洋服屋さん、こだわりをもって、見たり聞いたりしていくうちに、地域には子どもたちの大好きな場所や人が増えています。秋に行われる「親子町ステキ発見

ウォーク」では、一～三年生が保護者と町を歩きます。自分の大好きな場所について話す子どもたちの自慢げな表情がとてもすてきです。

四年生の学習では、地域の人たちの生活に深くかわっている川を調べ、川をきれいにする活動を考え、実践します。

学区には、四百年以上の歴史をもつ祭り「西尾祇園祭」があります。近年の少子化により担い手不足になっていることを知った五年生は、その継承に取り組んでいる人たちの思いにふれ、祭りの存続のために自分たちに何ができるかを考えました。六年生は、祇園祭の歴史や受け継いできた人たちの思いを多くの人たちに知ってもらいたいという願いを込めて、学芸会で演じました。

地域のたくさんの方の協力をいただいで学習を進める中で、自分の町を愛し、自分の言葉でその思いを語れる子を育てています。

(文責・齋藤 英二)



「西尾祇園祭物語」のフィナーレ

教育随想 (76)

防潮堤を難なく乗り越えていく巨大な水の塊。流されていく車や家々。高台に逃げた人々の足元まで迫る濁流。テレビ画面から次々と映し出される映像は、俄かに信じがたいものばかりでした。さらに、絶対安全と言われていた原子力発電所の爆発事故、放射能汚染。夢なら覚めてほしいと、誰もが願いました。

日本中が祈りと鎮魂に包まれたあの東日本大震災から丸四年。いまだに被災地の人々は、肉親を失った悲しみ、自分の家に戻れない悔しさ、将来に希望がもてない不安等、多くの苦しみの中で生活しています。平成二十六年十二月現在、行方不明者は二千五百九十四人。私たちにとって東日本大震災は過去ではありません。まさに現在進行形なのです。「神は乗り越えられる試練しか与えない」という言葉があります。未曾有の大災害は、私たちに何を教えたのでしょうか。

被災地を訪ねて

震災から四か月後の七月、私は瓦礫の撤去作業ボランティアとして、宮城県の牡鹿半島に行きました。テレビや新聞で見えた景色が、自分の足元から広がっている現実を目のあたりにして、まったく言葉が出ませんでした。家が根こそぎ流され、一つ

の集落が消滅した状況に茫然としました。汗を流しての撤去作業でしたが、体力を消耗する割には作業の成果はほんの僅か、無力感がこみ上げてきました。

そんな中、とても印象的なことがありました。それは若い力の頼もしさです。一緒に行ったボランティアの中に若い女性も何人かいました。汚く、臭く、おまけに重たいものを運ぶ作業でしたが、彼女たちは嫌

3.11 を超えて



知立市教育委員会 教育長
川合基弘

矢野きよ実さんは、書家としても有名です。彼女は震災直後から被災地に行き、特技の書を生かして子どもたちの心をケアする活動を続けています。

津波で恐ろしい体験をした子ども、大切な肉親を失った子どもは、決して「つらい」とか「悲しい」ということを周りの大人に言わないそうです。周りの全ての人がつらい悲しみの中にいるから、口に出して言えず、小さな心の底に押し込めてしまふのだそうです。よそ者で

ある矢野さんだからこそ、しかも言葉でなく書だからこそ、子どもたちは、自分の心の底から悲痛な叫びを取り出すことができるのです。「父」「わすれないで」「生きる」など魂のこもった子どもたちの一字一字は、直接私たちの心に届き、体の芯を熱く揺さぶります。そして、「命の大切さ」「当たり前前に暮らせる幸せ」など、生きることの原点について考えさせられます。

これから

な顔せず、積極的に明るく働いていました。また、高速道路のサービスエリアには全国各地から来たバスがあり、多くの若者がいました。中学生らしき少年も混じっていました。「誰かのために自分のやれることをやる。」震災は、人々にそんな決意を呼び起こす機会となったように思います。

矢野さんにお会いして

名古屋のテレビやラジオで活躍している

著しい人口減少、莫大な国の借金、そして予想される巨大災害等、次代を生きる子どもたちには、多くの試練が待っています。それらを乗り越えさせるために、確かな「生きる力」を育てることは私たち大人の責務です。そのために私たち大人が、この未曾有の大災害からの復興をなし遂げ、子どもたちにその姿を見せてやることも大事なところかも知れません。

- ◆平成26年度各部会・委員会刊行研究集録
- 理科 三河の理科教育 いま
 - 生活科 生活科研究
 - 音楽 三河の音楽教育
 - 技術・家庭 小「研究集録 第32集」
 - 中「研究集録 第41集」
 - 英語(外国語活動) 「研究集録 第54号」
 - 学習情報 三河の視聴覚教育
 - 統計教育 愛知の統計教育
 - へき地教育 愛知県へき地教育
 - 研究シリーズ第38集

編集後記

ここに平成二十六年年度の最終号である第百十四号をお届けいたします。この一年間、三河各地から子どもたちの「生きる力の育成」を目指した先生方の教育活動に対する誠実さと熱意が伝わってまいりました。貴重な原稿をお寄せいただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。

また、「教育 みかわ」をご愛読くださいました皆様、ありがとうございました。本会の発展が三河の子どもたちの健やかな成長につながることを願っております。

表紙の写真

「元氣よく歌ったよ」

撮影 豊川市立御油小学校

河原 淳 先生

カット

愛知教育大学附属特別支援学校

杉浦 直樹 先生